

■美濃部達吉 法学者。天皇機関説を唱え、学界・知識層の強い支持を得たが、議会で糾弾され、右翼の青年に襲われた。

みのべたつきち

明治6年政変 1873 = 兵庫県の高砂に医者の子男に生まれる。

(兄の俊吉は農商務省官僚でのちに朝鮮銀行頭取になる)

明治14年政変 1881 = 8歳：
新体詩抄・ 1882 = 9歳：

帝国憲法発布 1889 = 16歳：

足尾鉾毒始・ 1891 = 18歳：

日清戦争始・ 1894 = 21歳： 東京帝国大学法科大学に入学。
一木喜徳郎の国法学に強い感銘を受ける一方、穂積八束と合わず、

八幡製鉄始・ 1897 = 24歳： 卒業後、大学院進学を断念して、内務省に勤務、

Bushidou・ 1899 = 26歳： 依願免官の上、ヨーロッパ(独・英・仏)留学。
ビノ国産化・ 1900 = 27歳： 一木の斡旋で、在欧中に東大法学部助教授となり、

教科書疑獄・ 1902 = 29歳： 帰国。教授となり、比較法制史を担当。

日露戦争終・ 1905 = 32歳：
満鉄発足・ 1906 = 33歳： 「エリネック人権宣言論」を訳す。

アラサ 創刊・ 1908 = 35歳： 内務省に去った師の一木のあとをうけ、行政法第一講座を担当。
伊藤博文暗殺 1909 = 36歳：

大逆事件判決 1911 = 38歳： 文部省の委嘱を受けて中等学校教員のための憲法講義を行い、
明治天皇没・ 1912 = 39歳： *その筆記を「憲法講話」として公刊。天皇機関説を唱え、穂積八束の議論を厳しく批判するものであったため、穂積の弟子上杉慎吉より"国体に関する異説"として批判され、雑誌「太陽」を舞台に論争したが、学界・知識層の強い支持を得た。

本格政党内閣 1918 = 45歳：

大暴落・ 1920 = 47歳： *新たに設置された憲法第二講座の担当者となる。

原敬首相暗殺 1921 = 48歳： 法制審議会委員として選挙法改正など立法にも関与。

関東大震災・ 1923 = 50歳： 「憲法提要」、

G. イェリネックの影響下で国家法人説に立ち、また法解釈を歴史の発展に調和させるべく、柔軟な法運用の必要を力説した。また議院内閣制を歴史の必然的動向としてとらえ、憲法の自由主義的運用を力説した。

金融恐慌・ 1927 = 54歳：

海軍軍縮条約 1930 = 57歳： 「現代憲政評論」、

満州事変・ 1931 = 58歳：

五一五事件・ 1932 = 59歳： 貴族院勅選議員。
大正末以降、治安維持法批判、ロンドン条約支持、帝人事件捜査の人権侵害批判など、政治評論でも活躍したが、右翼陣営の攻撃を受け、

芥川直木賞始 1935 = 62歳： *議会で天皇機関説が糾弾されて「憲法提要」等著書が発禁処分、貴族院議員の辞任を余儀なくされた。
二二六事件・ 1936 = 63歳： 自宅で右翼の青年に襲われて重傷。

日中戦争始・ 1937 = 64歳：

日米開戦・ 1941 = 68歳：

敗戦・ 1945 = 72歳： 戦後は、幣原喜重郎内閣の憲法問題調査委員会顧問、
新憲法公布・ 1946 = 73歳： 枢密顧問官となったが、日本国憲法に対しては"国体を護持する"という終戦条件に違反している等の理由で批判的態度をとり、オールド・リベラリストの限界といわれ、
極東裁判決・ 1948 = 75歳： 没した。